

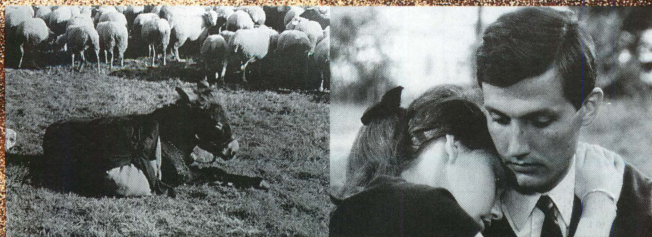
バルタザールどこへ行く

マリーとジャックに、バルタザールと
王の名をつけられたロバがいた
王は遍歴した…マリーと人間の業を見つめつつ
映画の美しさを極めた、巨匠ブレッソンの最高傑作

au hasard Balthazar

ヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞
ロベール・ブレッソン監督・脚本作品

●監督・脚本・脚色・台詞ロベール・ブレッソン ●撮影ギラン・クロウ ●美術ピエール・シャルボニエ ●音楽シューベルト、ショパン、フォーレ
●アプス・ウィアゼムスキー ●ランソワ・ラファルジュ ●ヴァルテル・ブレーン ●ジャン・クロード・ギルベール ●フランス・スウェーデン合
PARC FILMS, ARGOS FILMS, ATHOS FILMS, SVENSK FILMINDUSTRI, SVENSK FILMINSTITUTET



バルタザールどこへ行く

●ロベール・ブレッソン監督・脚本作品●ヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞●au hasard Balthazar



“このロバは
あらゆる人間の罪を
背負った象徴である”
[ブレッソン]



■監督のロベール・ブレッソンは1901年生まれ。日本では「スリ」、「ジャンヌ・ダルク裁判」、「やさしい女」、「白夜」、「ラルジャン」そして今回上映される3本が公開されている。世界で最も前衛的な映画作家の一人として異例され続けている巨匠である。映像と音のいっさいのムダを排除し、職業俳優を使わないことで有名。そして、そのキャストたちを一流のスタッフで支え、純粹で厳しく、崇高な美しさに溢れた作品で我々を魅了してやまない。(本年、第12回東京国際映画祭(10/30〜)「シネマプリズム」部門で今回上映3作品を含む、全14作品のレトロスペクティブ上映。)

■ピレネーの小村の教師の娘マリーと農園主の息子ジャックは、生まれたばかりのロバに、バルタザールと名づける。10年後、バルタザールは鍛冶屋の労役に使われていたが、苦しさに耐えかねて逃げ込んだ所は、10年前のジャックの父の農園で、今はマリー一家が住んでいた。マリーは再会を喜び、バルタザールを連れ回して夢中になるが、それを快く思わないジェラルムたち不良グループは、バルタザールを痛めつける…。バルタザールは様々な出来事に巻き込まれ、人間たちを見つめ、そして静かに死んで行くのだった。

■人手から人手へと渡っていくロバをめぐって、人間の本能と罪惡を至高の映像美で描いた「バルタザールどこへ行く」は、66年ヴェネツィア映画祭で審査員特別賞を受賞し、ブレッソンの最高傑作といわれている。

■ロバの名前となったバルタザールは、旧約聖書の神への冒険者バビロンの王、またキリスト誕生に駆けつけた東方の三賢人の一人を連想させる。しかし内容的には、2世紀ローマのアプレイウスの小説「黄金のろば」——魔女によってロバに変えられた人間が、放浪を続け、人間世界の裏を観察する——の影響を感じることができよう。

■「バルタザールどこへ行く」は、シンプルであるということ、そして明快であるということ、非常に私には通りの良い作品だと思う。この映画は美しい。そう、私にとってはただ美しいのみである…フランソワトリュフォー

(1970年公開時のアートシアター76号より)

【スタッフ】

脚本/ロベール・ブレッソン、撮影/ギラン・クロケ、美術/ビエール・シャルボニエ、音楽/シュベルト、ジャン・ヴィーネル

【キャスト】

マリー/アンヌ・ヴィアゼムスキー、ジェラルム/フランソワ・ラファルジュ、ジャック/ヴァレリ・グリーン、アルノルド/ジャン＝クロード・ギルベール

●1966年フランス映画(仏＝スウェーデン合作)、全5巻、1時間36分、モノクロ、1×1.37

●PARC FILMS、ARGOS FILMS、ATHOS FILMS、SVENSK FILMINDUSTRI、SVENSK FILMINSTITUTET

魂を鼓動させる 崇高な映像美 世界の巨匠 ブレッソン傑作選集

少女ムシェット

MOUCHETTE

●脚本/ロベール・ブレッソン、原作/ジョルジュ・ベルナノス、撮影/ギラン・クロケ、音楽/クラウディオ・モンテヴェルディ、ジャン・ヴィーネル●ナディヌ・ノルディエ、ジャン＝クロード・ギルベール●1967年フランス映画、全4巻、1時間20分、モノクロ、1×1.37●ARGOS FILMS、ATHOS FILMS

アル中の父親、病気で寝たきりの母親を持つムシェットは、学校でも教師や級友から嘲笑の目で見られる。現実の生活の中に見出すわずかな心の救いも、周囲の人々の軽蔑と無理解



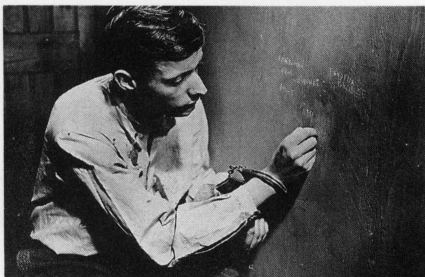
から踏みつぶされ、次第に孤独と絶望感にとられ、生きる望みを失ってしまう…。ストイックな映像から、無垢とは何か、聖性とは何か鮮やかに浮かび上がってくる。67年カンヌ映画祭カトリック協会賞、ヴェネツィア映画祭批評家賞受賞。

抵抗

UN CONDMANNE A MORT S'EST ECHAPPE, OU LE VENT SOUFFLE OU IL VEUT

●脚本/ロベール・ブレッソン、原作/アンドレ・ドヴィニー、撮影/レオン＝アンリ・ビュレル、音楽/モーツァルト●フランソワ・トリュフォー、シャルル・クラランジュ●1956年フランス映画、全5巻、1時間40分、モノクロ、1×1.37

実在のフランス軍人アンドレ・ドヴィニーが、リヨンのモンリュック監獄から4か月をかけて脱獄した体験の手記(ひとりの死刑囚が脱獄した)が原作。これが映画の原題となり、副題は「風はおのれの望むところに吹く」。自由を求める死刑囚の生と死の極限状態が、詩的緊張をはらんだ映像と極端に抑制された音の使い方で表現され、息づまるサスペンス空間と感動を生み出す。57年カンヌ映画祭監督賞受賞。



1月15日(土)~21日(金)大阪公開!【作品別入替制】▶▶▶引き続き京都・神戸連続上映!▶▶▶

	15(土)・18(火)・21(金)	16(日)・19(水)	17(月)・20(木)
11:30	バルタザールどこへ行く	少女ムシェット	抵抗
1:20	少女ムシェット	バルタザール	バルタザール
3:10	バルタザールどこへ行く	抵抗	少女ムシェット
5:00	抵抗	バルタザール	バルタザール
6:50	バルタザールどこへ行く	少女ムシェット	抵抗

扇町ミュージアムスクエア

06 (6361) 0088

ホワイティ梅田泉の広場M10右上がる東へ5分

<京都>2月8日(火)~13日(日)夜のみ

	8(火)・9(水)	10(木)・11(祝)	12(土)・13(日)
7:00	バルタザール	抵抗	——
8:55	——	少女ムシェット	バルタザール

京都みなみ会館

075 (661) 3993

九条大宮・近鉄東寺駅(JR京都駅よりひと駅)西へ150m

<神戸>2月19日(土)・20日(日)

- 少女ムシェット = 1:00~昼1回上映
- バルタザールどこへ行く = 2:30/4:20/6:10
- 抵抗 = 8:00~夜1回上映

神戸アートビレッジセンター

078 (512) 5500

神戸高速・新開地8番出口南へ3分

1作品鑑賞券1,400円発売中! (当日一般1,700円の処)

*ご覧になる劇場の前売券をお買い求めください。